科目ナンバリング	U-LAS52 10002 LJ22						
授業科目名<英訳>	博物館展示論 Museum Exhibition: Design and Communication			担当者所属職名・氏名	総合博物館　教授　塩瀬　隆之 総合博物館　助教　伊藤　毅		
群	キャリア形成科目群	分野(分類)	学芸員課程			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	水3	配当学年	2回生以上	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

博物館における具体的な展示事例を挙げ、企画から広報の仕方、レイアウトからキャプションの書き方まで展示の計画や設計を体験的に学ぶ。また、展示に必要な媒体の選択、観衆への配慮、展示資料の管理に至るまで、博物館展示に必要な一連の流れを網羅的に理解することを目的とする。さらに映像やVR、生成AIなどの最先端技術を博物館展示デザインにどのように持ち込めばよいか、試行的な取り組みも含めてその使用方法を習得し、博物館展示の多様な社会的意義についての理解を深める。

[到達目標]

博物館における展示機能について、コミュニケーションデザインの観点からその意義と使命を理解する。とくに歴史的経緯から令和4(2022)年の博物館法改正を含め、博物館がおかれている状況変化を理解し、さらに生成AIをはじめとする最先端技術の積極的導入により、社会教育において果たす博物館の現代的意義をキャリア形成に活かせるよう理解を深める。

[授業計画と内容]

以下のような課題について、１課題あたり１～２週の授業をする予定である。

1.展示とはコミュニケーションデザインである
2.展示の意義（歴史的背景～法改正）
3.展示の計画（企画～広報）
4.展示の設計（レイアウト～キャプション）
5.展示の媒体（アナログ～デジタル）
6.展示の観衆（動線設計～アクセシビリティ）
7.展示の管理（修復保存～評価）
8.展示と技術（伝統的技法～生成AI）
（うち2回、伊藤先生担当予定）

大学博物館における具体的な展示事例を挙げ、企画から広報の仕方、レイアウトからキャプションの書き方まで展示の計画や設計を体験的に学ぶ。また、展示に必要な媒体の選択、観衆への配慮、展示資料の管理に至るまで、博物館展示に必要な一連の流れを網羅的に理解することを目的とする。さらに映像やVR、生成AIなどの最先端技術を博物館展示デザインにどのように持ち込めばよいか、試行的な取り組みも含めて紹介する。授業中は、ICTツールを使用して積極的に相互の意見交換を可能とし、個々人が生成AIと協働的に展示企画を検討するなども実施予定である。なお，授業回数はフィードバックを含めて全15回。

博物館展示論(2)へ続く↓↓↓

博物館展示論(2)

[履修要件]

学芸員資格の取得を目的とする学生、ならびに博物館に興味関心を持つ学生を対象とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点（30%）＋中間レポート（30%）＋筆記試験（40%）で評価する。
資格取得に関わるキャリア科目であるため、平常点は9回以上の出席と授業内討論への積極的な参加のみ評価対象とする。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
デビット・ディーン『美術館・博物館の展示　理論から実践まで』（丸善出版）ISBN:978-4-621-07362-9

[授業外学修（予習・復習）等]

学芸員資格の取得を目的とする学生ならびに博物館に興味関心を持つ学生の場合、日頃より、積極的に博物館・美術館・水族館・植物園・動物園など博物館相当施設に足を運び、展示手法などの調査・見学を自主的に行うことが望ましい。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]